

土木学会論文報告集

No. 223, 1974-3

増分法による平面骨組構造物の 大変形解析の加速計算法.....	前田幸雄 林中村正守	1
断面変形を考慮した薄肉はりの振動解析.....	中村秀治	11
水文量の和に関する統計的研究.....	室田明 江藤剛 田中剛	23
海岸地域の井戸の非定常取水に関する解.....	荻原国広	33
地盤の非線形的性質を考慮した 単杭の水平抵抗に関する研究.....	勝見雅	39
土質調査の規模決定に関する研究.....	松尾稔 黒田勝彦	51
膨張セメントコンクリートのセルフプレストレス およびクリープに関する一実験.....	岡田清夫 平沢征哲 陳光	65
軸力および保存ねじりモーメント による柱の座屈(英文).....	築地恒夫	77
透過性消波工をもつ直立壁に作用する波力(英文).....	近藤俣郎	85
地盤内応力分布と極限支持力に関する模型実験(英文)	赤井浩一 大槻英夫	99

【討 議】

諸戸靖史著 “Anisotropy and Stress Distribution

in Sand” への討議

討議者 木村 孟...73

回答者 諸戸靖史...74



エネルギー不足や環境問題のため、コンクリート主材料であるセメントの、需要に見合った生産ができにくくなっています。

このため業界では、挙げてセメントの有効使用が叫ばれ、しかも昨今は、良質の骨材まで不足みで、この混乱に拍車をかけています。加えて、日進月歩発展する土木建築技術は、コンクリートに要求する品質を一層複雑なものにし、要求にあったコンクリートづくりを難しくしています。

コンクリート資材難の今日、コンクリートを経済的につくるため、資材は有効に使わねばなりません。では、どうしたら有効に資材を用いて、経済的にコンクリートがつかれるでしょう……………

ここにひとつの方法があります。それはコンクリート混和剤を利用することです。コンクリート混和剤は、そもそもが品質の改良に用いられ、この定義は今日も不変です。

強度、耐久性、水密性等、要求される諸性質を要求に合わせて改善し、コンクリートを最終的には良質で経済的なものにします。また、使いづら骨材や海砂等の使用も可能にします。そしてセメントの効率を高めることで、セメントの節約にもなります。

年々増大する使用傾向が、この事実を物語るかのように、わが国最初のコンクリート減水剤である「ポゾリス」をばじめとする弊社の各種混和剤は、要求される品質性能や経済性を忠実に具現化します。

全国にネットされた営業網で、使う身になったテクニカルサービス。そして、わが国最大手の自負が安定した品質を保障します。

ポゾリスの混和剤は資材を有効に使い、経済的なコンクリートづくりに貢献します。



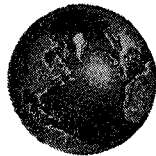
ポゾリス物産株式会社

本社 東京都港区六本木3-16-26(582)8811

札幌・仙台・宇都宮・東京・千葉・上越・高岡・静岡・名古屋・大阪・高松・広島・福岡

存分に駆使してください！

—— ポゾリスが控えております。



それだけでなく、小さな地球です。
限られた資源は有効に使いましょう！

PROCEEDINGS OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS

No. 223 March 1974

C O N T E N T S

- An Acceleration Approach for Large Deformation Structural Analysis by Incremental Method
By Yukio Maeda, Masa-Hayashi and Mamoru Nakamura 1
- Dynamic Analysis of Thin-Walled Beams Considering Cross-Sectional Deformations
By Hideharu Nakamura 11
- Stochastic Studies on Sums of Hydrologic Variables
By Akira Murota, Takeharu Eto and Katashi Tanaka 23
- Unsteady Phenomena of an Intake Well in Coastal Zone
By Kunihiro Ogihara 33
- Studies on Lateral Resistance of Single Piles Considering Non-Linear Properties of Soils
By Tadashi Katsumi 39
- A Study on the Decision Method of the Extension of Soil Explorations and Tests
By Minoru Matsuo and Katsuhiko Kuroda 51
- An Experiment for Self-Stressing and Creep of Expansive Cement Concrete
By Kiyoshi Okada, Ikuo Hirasawa and Che-Kuang Chen 65
- Buckling of Columns Under Axial Loads and Torsions
By Tsuneo Tsuji 77
- Wave Pressures on Vertical Wall with Porous Absorbers
By Hideo Kondo 85
- Model Studies on the Stress Distribution and the Bearing Capacity of Soil Ground
By Koichi Akai and Hideo Otsuki 99

The Japan Society of Civil Engineers

Yotsuya 1-chome Shinjuku-ku, Tokyo
JAPAN

土木学会論文報告集投稿要項要約

1. 投稿者：本会会員，ただし連名の場合は1人以上が会員であること。
2. 原稿提出期日：随時
3. 原稿の書き方について：土木学会投稿の手引き第3章参照。
 ○提出部数：正原稿（図・表・写真とも）および複写3通。
 ○図表について：正図はそのまま製版できるよう白か透明の紙に縮尺を考慮して必ずスミ入れする（線図・文字・符号などすべてスミ入れすること）。
 表は原則として活字で組むが，表の中に図が入る場合，複雑な表はすべてスミ入れするものとする。
4. 論文報告の長さ：論文報告1編の長さは原則として刷上り図表を含み10ページ以内とする。ただし，6ページまでの超過は認めるが，その費用はすべて著者の実費負担とする。
5. 和文要旨について：和文要旨は図・表・写真を含み刷り上り0.5ページ（800字～900字）として3部提出する。なお，投稿の手引き（6ページ）に記述してある「7. 欧文要旨」は現在必要ありませんのでお含みおき下さい。
6. 討議について：討議は土木学会論文報告集に掲載されたものを対象とし，論文報告集掲載後6ヵ月以内を原則とする。
7. 査読について：査読は次の5部門で行なうので投稿原稿はどの部門に属するかを明記する。
 第1部門：応用力学・構造力学・構造工学・橋梁一般・鋼橋等
 第2部門：水理学・水文学・河川工学・港湾工学・海岸工学・発電水力・衛生工学等
 第3部門：土質力学・基礎工学・岩盤力学等
 第4部門：道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画・国土計画・測量等
 第5部門：土木材料・土木施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学等

土木学会論文集編集委員

◎ 印 主 査 ○ 印 幹 事

委員 長	久野悟郎	副委員長	◎ 藤田 倍 穂	委員	鮎川 登	委員	堀北 川 浩 南
委 員	秋山成興	委 員	○ 片倉山 恒 郎	田 中 康 男	田 中 康 男	堀 北 川 浩 南	堀 北 川 浩 南
	赤松立義		○ 片倉山 恒 郎	田 中 康 男	田 中 康 男	堀 北 川 浩 南	堀 北 川 浩 南
	綾足日出教		○ 神田 大 孟	○ 田 中 康 男	○ 田 中 康 男	◎ 松 本 嘉 司	◎ 松 本 嘉 司
	石沢成夫		○ 木村 大 三	◎ 武 田 昭 彦	◎ 武 田 昭 彦	松 本 嘉 司	松 本 嘉 司
	坂倉新雄		喜 田 大 三	◎ 玉 井 昭 彦	◎ 玉 井 昭 彦	御 子 浦 春 二	御 子 浦 春 二
	岩松幸雄		北 原 義 浩	中 村 文 宏	中 村 文 宏	三 水 越 則 昭	三 水 越 則 昭
	宇野尚雄		小 坪 清 真	中 村 文 宏	中 村 文 宏	宮 村 尚 彦	宮 村 尚 彦
	枝村俊郎		小 佐 武 正 雄	西 野 隆 降	西 野 隆 降	村 上 地 順	村 上 地 順
	小川紀生		佐 鳥 悦 久	橋 本 宏 勇	橋 本 宏 勇	○ 森 矢 下 茂 弘	○ 森 矢 下 茂 弘
	小川正博		斎 藤 健 次 郎	広 田 良 輔	広 田 良 輔	矢 下 茂 弘	矢 下 茂 弘
	大塚明		西 頭 常 彦	日 比 野 敏 洋	日 比 野 敏 洋	山 田 清 臣	山 田 清 臣
	◎ 岡内 功 夫		坂 井 藤 一 吉	藤 田 谷 勝	藤 田 谷 勝	結 城 皓 暁	結 城 皓 暁
	奥山 育 英		椎 名 吉 彪	堀 江	堀 江		

土木学会論文報告集 No. 223

定価 450 円 (千 40 円)

昭和 49 年 3 月 15 日 印刷

昭和 49 年 3 月 20 日 発行

発行者 東京都新宿区四谷1丁目

社団法人 土木学会 専務理事 下村 肇

発行所 社団法人 土木学会 郵便番号 160 東京都新宿区四谷1丁目 振替 東京 16828 番

電話 (03) 351-5138

土木学会昭和49年度全国大会・第29回年次学術講演会実施要領

土木学会第29回年次学術講演会は、昭和49年度全国大会学術講演会として、昭和49年10月8日(火)、9日(水)、10日(木)の3日間、広島市内において開催することになりました。

概要集作製は学会本部担当、プログラム編成は支部担当です。講演申込先は中国四国支部、講演概要の原稿提出先は学会本部となります。

講演希望者は期限までに講演申込みならびに講演概要の原稿提出をして下さい。

1. 実施期日：昭和49年10月8日(火)、9日(水)、10日(木)

2. 実施場所：広島大学(広島市東千田町1丁目)

3. 講演要領：

① 講演時間：講演時間は1題あたり約15分(質疑討論、交代時間を含む)とします。

② 発表方法：研究論文は各部門とも、個人発表または総括報告形式として発表します。

個人発表は原則として1題ごとに質疑討論を行います。

総括報告形式では同じ種別の論文数編ずつを総括報告者がまとめて報告し、その後に各著者への質疑討論を行います。

③ 方式の決定：個人発表とするか、総括報告形式とするかは、各自の希望を参考に学会で決定し、学会誌7月号に掲載します。

④ 講演部門：講演部門は、次の5部門に分けます。

第Ⅰ部門：応用力学・構造力学・構造工学・橋梁一般・鋼橋など

第Ⅱ部門：水理学・水文学・河川工学・海岸工学・港湾工学・発電水力・衛生工学など

第Ⅲ部門：土質力学・基礎工学・岩盤力学など

第Ⅳ部門：道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画および地域計画・測量など

第Ⅴ部門：土木材料・土木施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学など

4. 講演申込：

① 講演者の資格：講演者は個人の土木学会会員に限ります。連名者は非会員でもさしつかえありません。巻頭に記述する連名者は3名を限度とし、それを超える氏名は文中または文末に挿入して下さい。

② 講演内容：原則として未発表のものに限ります。

③ 申込題数：全部門を通じて講演者1人1題に限ります。

④ 申込方法：所定の申込カードを使用し、講演1件につき講演申込料1000円をお払込み下さい。講演申込料の払込みは振替(口座番号7101-229038 土木学会全国大会実行委員会)をお願いします。なお申込後に発表を取消した場合は返金しません。

申込カードおよび振替用紙は各支部に準備してありますから、所属支部へ請求して下さい。

⑤ 申込期限：5月10日(金)必着のこと。講演申込料の払込みなきもの、期限後到着のものは受理できません。

⑥ 申込あて先：下記へ直送して下さい。

〒732 広島市基町6の36 広島中郵便局私書箱第94号 土木学会全国大会実行委員会

講演概要原稿：

① 概要の目的：講演概要は聴講者に内容を徹底させ、あわせて講演時間を短くし、かつ来聴できない会員に講演内容を速報するために作成します。

② 内容：講演概要は一般会員がこれによって十分理解できるよう、研究の考え方と結論をわかりやすく書いて下さい。

③ ページ数：原稿の長さは原則として、2ページとし、無料とします。超過する場合でも3ページまでとし、超過料3000円をいただきます。3ページを超えるものは受付けません。

- ④ 原稿用紙：原稿をそのまま縮写してオフセット印刷としますので、所定の原稿用紙を用いて下さい。従来の原稿用紙は使用しないで下さい。原稿用紙は手書き、タイプ用の2種あり、執筆要領とともに各支部に準備してありますから、所属支部へ請求して下さい。
- ⑤ 提出期限：6月25日（火）必着のこと。期限までに原稿提出のないもの、ページ数を超過していながら超過料の払込みのないものは、講演申込みを取消します。
- ⑥ 提出あて先：下記へ直送して下さい。ページ数超過の方は、超過料を別に現金書留または振替（口座番号東京16828 加入者社団法人土木学会）でお送り下さい。振替用紙（講演申込料払込用のものとは別です）は各支部に準備してありますから、所属支部へ請求して下さい。
- 〒160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会内全国大会講演概要集係
5. 講演概要集頒布：講演概要集はすべて有料です。学会誌7月号とじ込み予定の購入申込書によってお申込み下さい（申込期限8月31日；申込先：土木学会中国四国支部内全国大会講演係、送本9月上旬予定、土木学会全国大会講演概要集係より送本します）。なお、概要集の別刷はいたしません。講演概要集申込あて先 〒732 広島市基町6の36 広島中郵便局私書箱第94号土木学会全国大会実行委員会 全国大会講演係
7. 講演申込者へお願い：講演申込みならびに講演概要原稿提出は必ず期限を守って下さい。期限後到着のものは、プログラム編成、概要集の編集と印刷の作業進行上、全く余裕がありませんので受理できません。

講演・概要集・関係日程一覧

講演申込カード・原稿用紙・執筆要領	請求先所属各支部
講演申込：申込期限5月10日（金）（講演申込料の払込通知票共）	申込あて先：広島中郵便局私書箱第94号土木学会全国大会実行委員会
講演原稿：提出期限6月25日（火）（超過ページ料共）	提出先：土木学会本部内全国大会講演概要集係
概要集購入：申込期限8月31日（土）	申込あて先：広島中郵便局私書箱第94号土木学会全国大会実行委員会
概要集送本：予定日9月上旬	送付者：土木学会本部内全国大会講演概要集係

総括注意一覧

- 従来全国大会は多額の賛助金を募金することにより、各支部で実施していましたが、その費用の一部を講演者にもご負担いただくことにし、昨年から1件につき1000円の講演申込料をいただくことにいたしましたのでご協力下さい。
- 近來発表件数が激増し、講演概要集の単価もこれにあわせて上昇の一路をたどり、購入会員にご迷惑をおかけしております。この際、原稿のページ数2ページを超える方は実費（1ページ3000円）をいただくことにより概要集の単価をおさえることにしました。これは数年前までは行っていたのですが事務簡素化のため中止していたものです。また、これに関連して従来行っていた講演者に概要集の別刷30部を無料で贈呈することは、中止いたしましたのでご了承下さい。
- ページ数削減の対策として、従来の原稿用紙を廃止し、昨年より新たに1ページ2000字詰（従来は1620字詰）の原稿用紙（手書き用、タイプ用の2種）を作り、2ページで従来の2割強、3ページで従来の4ページ分の分量がほぼ入るように考慮しました。
- 従来連名者の制限をいたしておりましたがそのため概要集およびプログラムのページが増加するおそれがありますので、昨年から連名者は発表者を含み3名といたしました。これを超える連名者はご必要あれば文中または文末に挿入していただくこととなります。